

## 1P135

## 医療的ケアの為に基本的な生活習慣獲得困難な幼児前期の子どもに対する熟練看護師の実践

中嶋 香織、小島 佳歩、松永 幸子

埼玉県立小児医療センター

## 【はじめに】

看護師と子どもの関わりは医療的ケアに関する内容が多く、家庭での生活を見据えた子どもの発達に対する実践が少ないことが指摘されている。本研究では医療的ケアにより基本的な生活習慣の獲得が困難である幼児前期の子どもに対し、様々な経験を積み、知識及び技術を駆使して水準の高い看護ケアを提供する熟練看護師が行う実践を明らかにする。

## 【目的】

医療的ケアの為に基本的な生活習慣獲得困難な幼児前期の子どもに対する熟練看護師の実践を明らかにする。

## 【方法】

臨床経験5年以上の看護師を「熟練看護師」と定義する。基本的な生活習慣とは食事、睡眠、排泄、着衣、清潔の5つを指す。小児専門病院の熟練看護師4名を対象とし、基本的な生活習慣の獲得が困難な幼児前期の子どもの看護経験について、インタビューガイドを用いた半構面面接を実施した。データ収集期間は令和元年7月1日～12月31日とした。インタビューの語りは逐語録にし、文脈的な意味づけを行い類似性に基づきテーマを抽出した。

## 【倫理的配慮】

施設内倫理委員会の承認を得て実施した（2019-03-019）。

## 【結果】

テーマ1. 子どもの主体性を引き出す：医療的ケアやデバイスが生涯必要となることを意識して、看護師が全てを行うのではなく、子どもと一緒に実施していた。テーマ2. その子なりの成長発達に合わせる：病状により獲得困難が予想される基本的な生活習慣においても、時間を決め模倣を促す等、子どもが参加する機会を設けていた。テーマ3. 家族と情報を共有する：子ども自身が医療的ケアを基本的な生活習慣に組み入れて、成長発達していくための方法を家族と考えていた。テーマ4. 退院後の生活を考える：家族や子どもが継続可能な方法を提案していた。

## 【考察】

熟練看護師は、医療的ケアの為に基本的な生活習慣の獲得が困難とされる幼児前期の子どもであっても、その発達課題を意識した関わりを行っていると考えた。また、看護師の関わり方や子どもの反応を共有することで家族の見本となり、退院後も医療的ケアと基本的な生活習慣の獲得を促していると考えられる。

## 【結論】

熟練看護師は医療的ケアのある幼児前期の子どもに対し、発達を促進させる方法を考えながら看護を実践していた。また、家族が持続可能な方法で基本的な生活習慣獲得に向けた支援をしていた。

## 1P136

## 訪問看護における専門看護師の活動に関する文献検討～小児看護専門看護師に求められる役割～

細田 三奈

訪問看護ステーション しえあーど

## 【背景】

地域包括ケアシステムの推進に伴い在宅療養者が増加し、小児領域では、医療依存度の高い子どもが増えている。医療依存度の高い療養者には専門的ケアが必要であり、専門看護師（以下、CNS）が地域で活動することは、利用者・家族・医療者にとって有用である。CNSは現在2733人登録されているが、その80%が病院所属であり、訪問看護ステーションは3%である。

## 【目的】

本研究では、文献検討により、訪問看護におけるCNSの活動の実態と課題を明らかにし、今後の活動への示唆を得る。

## 【方法】

医中誌Webを用い、「訪問看護」と「専門家看護師」をキーワードとし、過去5年に限定して検索を実施した（2021年1月23日）。96文献が抽出され、そのうち、訪問看護におけるCNSの活動について記述のある30文献を分析対象とした。マトリックス法を用い、訪問看護におけるCNSの活動や課題について内容分析した。

## 【結果】

30文献を分析した結果、CNSは、利用者と利用者を取り巻く環境について【包括的なアセスメント】を行い、【多職種と連携】しながら、【生活に密着した高度実践】をしていた。特に小児領域では、利用者の【成長過程に合わせた支援】や家族への【育児支援】を通じて【家族エンパワーメントを高めるかわり】をしていた。その結果、利用者の症状が改善し、安心感が高まり、在宅療養期間の延長につながっていた。訪問看護師へは、【日々のケアを言語化】し、【相談に乗る】ことで、専門性の高い知識と技術の助言や心理的支援を行い、訪問看護師のケア能力や自信の向上に貢献していた。また、【自施設以外の相談に対応】するなど、地域の訪問看護の質の向上に寄与していた。さらに、病院や保健所などに働きかけ【地域のネットワークづくり】を行い、【地域ケアシステムづくり】を行っていた。課題として【連携病院とのシステム構築】があり、自施設以外の活動においては、【コスト面の心配】や【時間の確保や調整が難しい】があった。

## 【考察】

CNSは、生活に寄り添った看護を行うだけでなく、活動範囲を広げ、地域の訪問看護の質の向上に寄与していた。連携・協働している職種は医療、福祉、行政と多岐にわたり、高度な調整能力が求められる。小児の地域包括ケアの課題として、施設と地域をつなぐ調整役がないことがあり、小児看護CNSはコーディネーターとしての役割が求められる。